

5 参考資料

(1) まちづくり審議会での検討

本書の作成に当たり、様々な立場からの意見を反映させるため、まちづくり審議会において検討を行った。

○第4期まちづくり審議会委員一覧

氏名	職名
相川 康子	特定非営利活動法人 NPO 政策研究所専務理事
岡 絵理子	関西大学教授
片山 朋子	EP 創造舎代表
角野 幸博 (副会長)	関西学院大学教授
小村崎 栄一	兵庫県商工会連合会事務局長兼事業部長
住友 聡一	公益財団法人ひょうご環境創造協会環境技術専門員
鳴海 邦碩 (会長)	大阪大学大学院名誉教授
春名 千代	NPO 法人奥播磨夢倶楽部理事長
人羅 亜矢子	認定NPO 法人CS 神戸 生きがいセンター神戸東センター長
平田 富士男	兵庫県立大学大学院教授
室崎 千重	奈良女子大学講師
森津 秀夫	流通科学大学教授
山下 淳 (副会長)	関西学院大学教授
岡 つよし	兵庫県議会議員
向山 好一	兵庫県議会議員
明石 元秀	赤穂市長
古谷 博	稲美町長

○検討の経緯

時期	実施・検討事項
H29. 12. 1	【平成 29 年度第 1 回審議会】 ・まちづくり基本方針の点検・評価を踏まえた重点課題 (検討テーマ)の検討
H30. 3. 26	【平成 29 年度第 2 回審議会】 ・重点プロジェクトの検討
H30. 7. 31	【平成 30 年度第 1 回審議会】 ・取組方策の提案

(2) まちづくり基本方針

(次頁より記載)

(1) 基本方針の位置づけ

- ・まちづくり基本条例第10条に基づき、まちづくり施策を総合的に講ずるための基本方針(平成11年のまちづくり基本条例の制定を受け、平成12年に策定、平成19年に改定)
- ・21世紀兵庫長期ビジョン(以下、「長期ビジョン」)のまちづくり分野における基本的な方針として、平成23年の長期ビジョンの見直しを受け改定
- ・長期ビジョンと同様に、2040年を想定年次としてめざすべきまちの将来像を提示し、2020年を目標年次として取組の方向性を明確化

21世紀兵庫長期ビジョン

まちづくり基本方針

(2) 改定の目的と視点

- ◇改定の目的
 - ・長期ビジョンの改定を受け、人口減少社会の本格到来や、東日本大震災等を契機とした防災対策や環境問題への関心の高まりなど、まちづくりを取り巻く社会状況の変化を踏まえた、兵庫県の新しいまちづくりの方向性を総合的に示すために改定
- ◇改定の視点
 - ～地域のための基本方針へ～

住民・団体、事業者、市町、県による具体のまちづくり

「まちづくり」について

本基本方針では、「まちづくり」の対象を「日常生活に係る空間づくり(ハード)とそれに関係する人づくりや仕組みづくり(ソフト)」として定義

視点1 まちづくりの方向性をわかりやすく表現

住民・団体や事業者、市町、県の共通理解が得られるよう、今後のまちづくりの方向性をわかりやすく表現

◇物語やキーワードの活用

地域の将来像を提示するにあたり、地域で何をめざし、何をすればいいのかがイメージしやすいよう、めざすべき将来像を生活の一場面として表現した物語や、キーワードを活用

◇地域ごとの取組方向を「重点プロジェクト」として提示

取組方向が一目でわかる「重点プロジェクト」を提示し、住民・団体や事業者、市町、県が地域で何をめざし、何をすればいいのかを提示

多自然地域の集落群	地方都市
「絆」による暮らし再生プロジェクト	個性あふれる地方の拠点創造プロジェクト
郊外住宅地	都市中心部
住民主体のニュータウン再生プロジェクト	ひょうご都市ブランド構築プロジェクト

◇まちづくり施策集
市町が具体的課題の解決に向けて地域のまちづくり施策を検討する際や、住民等が具体のまちづくりを考える上で参考になるよう、県内外、国外のまちづくりの事例等について、概要を整理

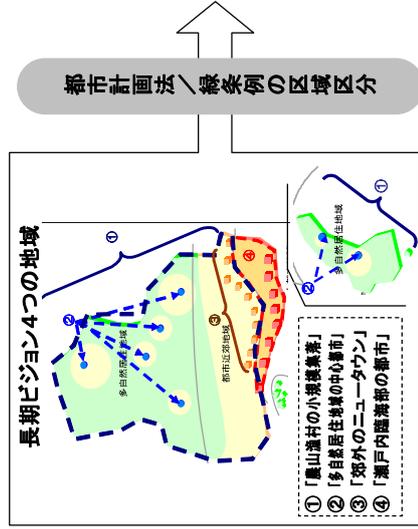
◇まちづくり指標集
各主体が本方針でめざすべきまちづくりの実現状況を確認できるよう、また市町が地域で進めたまちづくり施策について、その効果を確認する指標を設定できるよう、地域類型・テーマ別に、指標を整理

◇まちづくり資料集の整備

住民・団体や事業者、市町それぞれが、地域でまちづくりを進める際に有効な「道具箱」となる事例・施策・指標を別途作成

視点2 ひょうごの個性を示す「4つの地域」を提示

瀬戸内臨海部の大都市群から、多自然地域の小規模集落まで多様な地域を持つ兵庫県の特性を踏まえ、長期ビジョンで示された4つの地域区分と、都市計画法と緑条例が定める区域区分との関係を整理



4つの地域	多自然地域	多自然地域の集落群	多自然地域圏	都市圏
定義	多自然地域に存在する集落を中心に②③④を除く区域を指し、具体的には下記の区域を目安とする。	都市圏以外の地方都市の中心市街地とその周辺を指し、具体的には下記の区域を目安とする。	瀬戸内臨海部の高度成長長期以前から存在する既成市街地を指し、具体的には下記の区域を目安とする。	瀬戸内臨海部の高度成長長期以前から存在する既成市街地を指し、具体的には下記の区域を目安とする。
都市計画法	市街化区域	市街化調整区域	市街化区域	市街化区域
緑条例※	4号区域	1、2、3号区域	市街化区域	市街化区域
※	全域	全域	全域	全域

※緑豊かな地域環境の形成に関する条例における環境形成区域区分

視点3 問題意識と未来への希望を県民と共有

県民と共通の課題認識に立った上で、4つの地域における「懸念される事態」と、それぞれの地域が有する資源や個性、魅力を活用した「めざすべき将来像」を提示し、問題意識と未来への希望を県民と共有

懸念される事態

激化する災害や人口・世帯数の減少と高齢化等から、このまま放置すれば陥ってしまうまちの将来像を提示

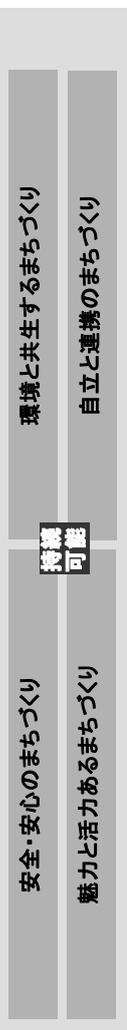
めざすべき将来像

住民・団体、事業者、市町、県の参画と協働により、左記の懸念される事態を克服してめざすべきまちの将来像を提示

基本コンセプト

地域がつくり、未来へつなぐまちづくり

これからのまちづくりは地域が主役。県民一人一人が主役となって、個性が輝き持続可能な地域をつくる。安全・安心な地域、環境と共生した地域、魅力と活力にあふれた自立した地域を、交流と連携のもとにつくり、「創造と共生の舞台・兵庫」の実現をめざす。



(1) 4つの地域の設定

多様な地域を持つ兵庫県の特性を踏まえた4つの地域を設定し、2040年を想定した、地域における「懸念される事態」と「めざすべき将来像」を提示

多自然地域の集落群		地方都市		都市中心部	
懸念される事態	めざすべき将来像	懸念される事態	めざすべき将来像	懸念される事態	めざすべき将来像
<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活が維持できず小規模集落が衰退 ・農地や森林、里山の荒廃により水産漁業等の機能が低下 ・災害時に集落が孤立化 	<ul style="list-style-type: none"> ・つながりが育む豊かな暮らし ・豊かな自然が異質の農、食料やエネルギーの源となる ・地域を愛する都市住民との交流により新たな絆が生まれる ・地域の伝統が親から子へ継承され共に暮らせる社会となる 	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点機能の低下 ・中心市街地の衰退により周辺地域の生活拠点としての機能が低下、周辺地域の衰退が加速 ・市町合併による地域格差がさらに拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・個性あふれる地域の核 ・地域の文化や経済の中心となる ・都市機能が集約した歩いて暮らせるコンパクトなまちとなる ・周辺地域や遠方からの交流の結節点となる 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活機能の劣化 ・空室需要の縮小により空き地空き家が増加 ・センター施設の高齢化や公共サービス、高齢者の移動に支障が発生、高齢者の移動に支障が拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民主体の成熟したまち ・計画された都市基盤やゆとりある良好な住環境が維持推進される ・住民が主体となり様々なコミュニティイベントがまちの機能を充実させる ・多世代が連携するまちとなる

(2) 県全体のまちづくりで重要となる4つのテーマの設定

県民と共通の課題認識のもと、今後のまちづくりにおいて重要になる4つのテーマを設定。これらの4つのテーマを軸に総合的なまちづくりを展開し、個性が輝き持続可能な地域を形成

安全・安心のまちづくり		環境と共生するまちづくり		自立と連携のまちづくり	
<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ巨大地震等に備えた都市機能の確保と迅速な復興への対策、誰もが安心して暮らせる環境整備など、まちの安全・安心の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 安心して暮らせるまちづくり ○福祉のまちづくり、ユニバーサルデザイン ○防災・減災対策 ○大災害時の都市機能の確保と迅速な復興 ○医療、福祉、子育て、購買機能の確保 ○移動利便性の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 住宅やまちの低炭素化、省資源化、省資源化、省資源化の自給と、自然環境や生物多様性の保全再生などによる環境との共生 	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境と調和するまちづくり ○自然環境や生物多様性の保全再生 ○農地や森林、里山の保全再生 ○都市緑化 ○公共交通の利用促進 ○環境に対する県民意識の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力と活力あるまちづくり 地域の宝や個性の再発見と発信による地域の魅力づくりと、人口減少期に適合した都市機能の集約や地域の実情に応じたきめ細かな土地利用調整による地域活力の増進 	<ul style="list-style-type: none"> 自立と連携のまちづくり 人と人、地域と地域の交流や連携の促進による持続人口(定住人口+交流人口)の確保と地域の自主・自立
<ul style="list-style-type: none"> 安全に暮らせるまちづくり ○防災・減災対策 ○大災害時の都市機能の確保 ○迅速な復興 	<ul style="list-style-type: none"> 安心して暮らせるまちづくり ○福祉のまちづくり、ユニバーサルデザイン ○防災・減災対策 ○大災害時の都市機能の確保と迅速な復興 ○医療、福祉、子育て、購買機能の確保 ○移動利便性の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 低炭素・創エネのまちづくり ○住宅・建築物の低炭素化 ○都市の低炭素化 ○再生可能エネルギーの導入促進 ○地域のエネルギー源の多様化 ○エネルギーの最適利用 ○公共交通の利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境と調和するまちづくり ○自然環境や生物多様性の保全再生 ○農地や森林、里山の保全再生 ○都市緑化 ○公共交通の利用促進 ○環境に対する県民意識の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力と活力あるまちづくり 地域の宝や個性の再発見と発信による地域の魅力づくりと、人口減少期に適合した都市機能の集約や地域の実情に応じたきめ細かな土地利用調整による地域活力の増進 	<ul style="list-style-type: none"> 自立と連携のまちづくり 人と人、地域と地域の交流や連携の促進による持続人口(定住人口+交流人口)の確保と地域の自主・自立
<ul style="list-style-type: none"> 安全に暮らせるまちづくり ○防災・減災対策 ○大災害時の都市機能の確保 ○迅速な復興 	<ul style="list-style-type: none"> 安心して暮らせるまちづくり ○福祉のまちづくり、ユニバーサルデザイン ○防災・減災対策 ○大災害時の都市機能の確保と迅速な復興 ○医療、福祉、子育て、購買機能の確保 ○移動利便性の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 低炭素・創エネのまちづくり ○住宅・建築物の低炭素化 ○都市の低炭素化 ○再生可能エネルギーの導入促進 ○地域のエネルギー源の多様化 ○エネルギーの最適利用 ○公共交通の利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境と調和するまちづくり ○自然環境や生物多様性の保全再生 ○農地や森林、里山の保全再生 ○都市緑化 ○公共交通の利用促進 ○環境に対する県民意識の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力と活力あるまちづくり 地域の宝や個性の再発見と発信による地域の魅力づくりと、人口減少期に適合した都市機能の集約や地域の実情に応じたきめ細かな土地利用調整による地域活力の増進 	<ul style="list-style-type: none"> 自立と連携のまちづくり 人と人、地域と地域の交流や連携の促進による持続人口(定住人口+交流人口)の確保と地域の自主・自立

(3) 課題認識の共有

社会・経済背景、長期ビジョンの課題整理を踏まえ、今後のまちづくりに向けたキーワードを抽出することで、まちづくりの視点から課題認識を整理し、県民と共有

社会・経済背景

激化する災害等

- <東日本震災>
- ・想定外の津波による広範囲な被害、原子力発電所の事故に端を発したエネルギー問題、都市機能の停止と大量の帰宅困難者の発生等
- <その他の災害>
- ・今後30年以内に60~70%の確率で発生する南海トラフ巨大地震、気候変動に伴い頻発する風水害
- <環境問題>
- ・地球温暖化やヒートアイランド現象の進行

成熟社会の進展

- ・経済のグローバル化と国内経済の停滞、重から軽への転換、情報通信技術の発展等による価値観や生活の多様化

長期ビジョン 全県的な課題整理

人口・世帯数の減少と高齢化

- ・人口・世帯数の減少、世帯構成員の減少と高齢者世帯の増加
- ・人口の偏在化、年少者・高齢者の偏在化

多様な生活

- ・家族が小さくなる中でつなぐの構築
- ・地域の支え合いによる安心な生活基盤の構築
- ・雇用環境の整備と多様な働き方の実現
- ・強まる健康と安全・安心への志向

世界に開かれた兵庫

- ・世界や地域でさまざまな結びつきが求められる経済・産業
- ・拡大・深化が求められる多文化との交流・共生
- ・兵庫を支える人材の育成・集積

持続する地域構造

- ・長遠が進む多自然地域の集落
- ・居住化が進む地方都市
- ・世代交代が停滞する郊外のニュータウン
- ・人口集中が当面継続する瀬戸内臨海部の都市
- ・地域の自立・活性化

今後のまちづくりに向けたキーワード

- 防災への意識の高まり
- 環境やエネルギーへの意識の高まり
- 都市の縮小
- 二極化・都市間競争の激化
- 自治体の財政難
- 地域活力の低下
- ライフスタイルの多様化

(1) 地域で取り組む重点プロジェクト

基本コンセプトのもと、懸念される事態を避け、めざすべき将来にたどり着くために、住民・団体や事業者、市町、県が連携し地域で重点的に取り組むべきまちづくりの方向性を、2020年に向けた「重点プロジェクト」として提示

多自然地域の集落群 「絆」による暮らし再生プロジェクト

財政規模の縮小によって公共インフラや公共サービスの維持が困難になり、荒廃が懸念される「多自然地域の集落群」において、住民相互のつながりを継承し、地域間のつながりを創出することで、「絆」による豊かな暮らしづくりを進める。

<p>◆「つながり」で築く安全・安心</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難と孤立防止に重点を置いた災害対策 移動や買い物など、暮らしの安心確保 	<p>安全安心</p> <p>集落内介護システム(長野県松竹)</p> <p>集落の住民が互いの支援によりヘルパー資格を取得、安心介護を実現。</p>	<p>環境共生</p> <p>新エネルギーの積極導入(長野県上田)</p> <p>町民一体となり、町新エネルギーにより自然エネルギーが80%を占める</p>
<p>◆地域の魅力が「つなげる」こと</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊かな暮らしや伝統文化など、地域の魅力の発見・発信とことごとつなげる取組 	<p>魅力活力</p> <p>古民家再生による地域の魅力創出(徳島市)</p> <p>茅葺民家の再生により、バーベキュー、農産品部と活用</p>	<p>自立連携</p> <p>世代を超えて「つなげる」担い手育成</p> <ul style="list-style-type: none"> U/Iターン者を活かした担い手育成 村移りも視野に入れた集落の自立、都市との連携

郊外住宅地 住民主体のニュータウン再生プロジェクト

人口構成の歪みと住宅需要の低下による空き家・空き地の増加が引き起こす住環境の悪化や地域活力の低下が懸念される「郊外住宅地」において、空き店舗等を活用したコミュニティビジネス等を進める。また、住民が主体となり多世代が支え合う持続するまちへの再生を進める。

<p>◆住民がつくる安全で安心な「まち」へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 宅地の耐震化と自主防災組織の強化 高齢者等の暮らしの安心確保 	<p>安全安心</p> <p>ニュータウンの安心拠点づくり(静岡県)</p> <p>センター地区に民間資格による高齢者施設を誘致</p>	<p>環境共生</p> <p>住民連携によるエコポイント創出(伊豆市)</p> <p>民間企業への一括分譲によるスマートタウン開発</p>
<p>◆魅力としごとを生み出す「まち」へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 空き地・空き家等を活用した住民による新たなサービスやしごとの創出 	<p>魅力活力</p> <p>ニュータウンの魅力と活力づくり(静岡県)</p> <p>空き店舗を活用した施設誘致やアザラシコート建設</p>	<p>自立連携</p> <p>多様な人材が活躍できる「まち」へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 若年世代を呼び込む住環境づくり 高齢者の経験や能力を活かした担い手育成 ニュータウン再生の成果の活用

地方都市 個性あふれる地方の拠点創造プロジェクト

中心市街地の衰退が進み、地域の拠点としての機能の低下が懸念される「地方都市」において、使われなくなった地域資産の積極活用や都市機能の更新・集積、住宅や生活サービス施設の立地誘導により、多自然居住地域の自立を担う核としての都市づくりを進める。

<p>◆地域の安全・安心の核となるまちへ</p> <ul style="list-style-type: none"> 周辺地域の災害対策拠点としての備えの充実 周辺地域の安心拠点の形成 	<p>安全安心</p> <p>専任職員によるパトロール(堺市)</p> <p>専任職員(警察OB)による安全安心パトローラを実施</p>	<p>環境共生</p> <p>エネルギーや食の地産地消で自立したまちへ</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域エネルギーの効率化・自立化 地域の自然や気候を生かしたまちづくり
<p>◆個性が集まり賑わうまちへ</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の多様な歴史・文化の発見と発信 地域に活力をもたらすしごとの創出 都市機能の集約による賑わいと利便性の向上 	<p>魅力活力</p> <p>地産地消を核としたまちづくり(伊豆市)</p> <p>恐竜化石を活用し、地域の魅力により、地域の賑わいと活性化</p>	<p>自立連携</p> <p>さまざまな人が交流する結節点へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 空き空間を活用した交流促進と担い手育成 広域交通整備と地域交通支援 周辺地域との連携による広域のまちづくり

都市中心部 ひょうご都市ブランド構築プロジェクト

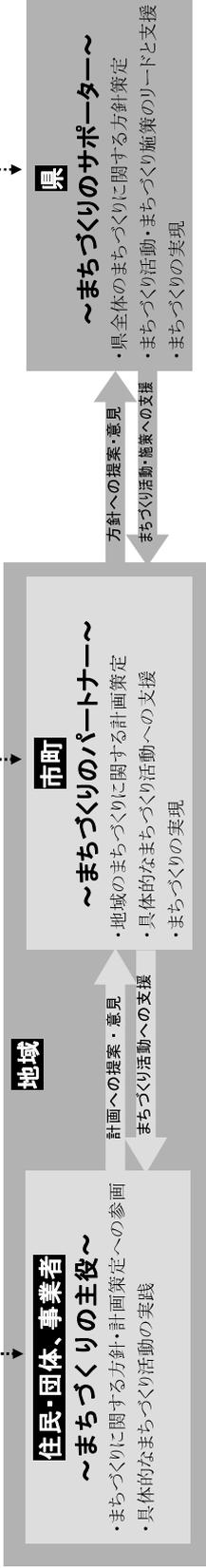
地域経済の縮小や都市機能の更新・集積の遅れなどによって都市の魅力の低下が懸念される「都市中心部」において、まちの利便性や賑わい、安全性を高めることで、多くの人々が安心して快適に暮らし、集い、働ける、まちの個性が輝いた都市づくりを進める。

<p>◆安全・安心の拠点都市へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模災害に備えた都市機能確保と迅速な復興対策 災害や交通、防犯など、ソフト・ハードにわたる総合的な安全安心システムの構築 	<p>安全安心</p> <p>災害時の帰宅困難者対策(明石市)</p> <p>企業との協定により、災害時帰宅支援ステーションを設置</p>	<p>環境共生</p> <p>多様なエネルギー源をもつ低炭素都市へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市のエネルギー源の多様化・分散化 建築物や都市の低炭素化・省エネ化 緑あふれる都市空間の構築
<p>◆個性が輝く集約型都市へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 個性あふれる都市ブランドの構築 先端的な都市機能の適正配置 既存商店街の再生 	<p>魅力活力</p> <p>「デザイン都市・神戸」の推進(神戸市)</p> <p>神戸らしさに働きかけるデザインを市民一丸となり推進</p>	<p>自立連携</p> <p>多選択・多参画型都市へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な住み方の創出と多様な人材の活用 ひょうごの要としての機能充実と世界にはばたく交流都市づくり

(2) 各主体の役割

住民・団体や事業者、市町、県が、相互の理解、信頼及び協働のもと、本方針に示す「めざすべき将来像」の実現に向けまちづくりに取り組む。

県は、住民・団体や事業者、市町が取り組むまちづくり活動(ソフト)への支援を行うとともに、市町と協働して地域の空間やインフラの整備(ハード)に取り組む。



拠点機能の低下

激化する災害等
・治水対策、防災対策の遅れ
により被害が拡大
・要援護者が孤立

成熟社会の進展

個性あふれる地域の核

地域の文化や経済の中心として、災害時の安全や地域エネルギーが確保され、医療や介護、就労や教育、購買機能が集約されることで、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりが進み、周辺地域や遠方からの交流の結節点となっている。

拠点機能の低下

中心市街地への来訪者減少
医療、介護、就労、教育、購買機能の低下、公共交通のサービス低下
(シャッター商店街の増加、公共交通網からの脱落)

地域の将来を写す指標例

地域の文化や経済の中心となる
・都市機能が集約した歩いで暮らせるコンパクトなまちとなる
・周辺地域や遠方からの交流の結節点となる

拠点機能の低下

周辺地域の衰退を加速

若者の残留率

中心市街地売上率
一観光客数

懸念される事態

個性あふれる地域の核

地域の文化や経済の中心として、災害時の安全や地域エネルギーが確保され、医療や介護、就労や教育、購買機能が集約されることで、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりが進み、周辺地域や遠方からの交流の結節点となっている。

安全・安心のまちづくり

筒屋3代目の浩之さん(43)は、老朽化が著しい商店街をリニューアルすることが夢だったが、商店会長への就任を機に、市の助成制度を活用し、商店街のバリアフリー化を実現した。また、地区連合会と協働して災害時の避難経路や多目的トイレ等の情報マップづくり、緊急情報連絡システムづくりに取り組み、その活動がこのたび県知事賞として評価された。

周辺地域の災害対策拠点となっている

事前復興まちづくり計画が策定され、大規模災害による都市機能喪失時に、仮設住宅の建設やガレキの処理、復興まちづくりを迅速に行える体制が整っている
・建築物の耐震化や建替えが完了し、宅地の耐震化も確保されている
・災害時の避難や要援護者への支援体制が確立している

地域生活の安心の核となっている

医療施設や介護施設が充実し、周辺の集落の住民の安心拠点となっている
・ユニバーサルデザイン化や移動手段の確保により、高齢者や子育て世帯、外国人等、誰もが安心して暮らしている
・地域ぐるみの防犯や交通安全活動により、犯罪や交通からの安全が確保されている

環境と共生するまちづくり

弟の静司さん(40)は最近駅前のマンションに引越した。ここは母親の亜紀さん(72)の通院に便利で、駅前にもかかわらず緑とゆとりに溢れたまちだ。この地域は町工場の撤退が増えたため、5年前に都市計画を変更し、都市機能を集積する市街地開発事業を実施した地域だ。その結果、生活利便施設や医療・介護に加え、地産地消のレストランなどが集まり、周辺地域の中心となっている。

地域エネルギーが自立している

住替えや集約化に伴う空き地が創エネ施設としても活用されている
・創エネや蓄エネ、省エネの組み合わせにより、エネルギーの効率活用と地産地消が進んでいる

地域の自然や気候を生かしたまちづくりが進んでいる

歩いて暮らせるまちとなり、公共交通が活用されている
・ゆとりある住宅の庭や道路・公園の緑が周辺環境と調和し、地域の動植物と共生した緑豊かなまちが実現している
・住宅には地域の木材が活用され、高い断熱性能やパッシブソーラー、太陽光発電設備を備えた住宅が普及し、低炭素化が進んでいる

魅力と活力あるまちづくり

妻の直子さん(35)は海外企業のコールセンターに勤めている。都市機能集積により生まれた空間に昨年立地したのめ、職場から自宅に向かう「柳街道」と呼ばれる、直子さんお気に入りの川沿いの道路には厳しい景観ルールが定められ、多数の観光客を呼び込み地域の誇りとなっている。仕事が終わると柳街道を歩き、娘(4)を保育園に迎えに行くのが直子さんの日課だ。

地域の個性が発見・発信され、新たなしごとを生んでいる

広域景観ルールにより地方独特の景観が保全され、歴史や物語と複合して、広域的な観光ルートが整備されている
・個性ある歴史文化やまちなみ、建築物、地域固有の農産物・料理、工芸品などの資源が保存・継承され、新たなビジネスや人を誘引する魅力となっている
・地域に根ざした事業者が地域の雇用を生み出している

まちなかの利便性が向上し、賑わいが生まれている

周辺集落からの通勤や通学、医療福祉、購買等の中心地
・都市機能の集約により、中心市街地の利便性が高まり、周辺地域の文化的な暮らしを支えている
・多様な働き方による多様なライフスタイルが実現している

自立と連携のまちづくり

叔父の靖浩さん(70)は、車で30分の集落に住み、NPOで農業体験を主催している。昨年から持病が悪化したため、コミュニティバスに乗り駅前の病院に通院しているが、帰りは田舎暮らし情報センターに顔を出し、若者とおしゃべりするのを楽しみだ。空き店舗を活用したセンターは、周辺集落の情報が集まる拠点として賑わっており、今日は来月開催する18集落合同収穫祭の関係者が賑わっていた。

内外の多様な人々による交流が進んでいる

田舎暮らし愛好者や地域文化研究者等、地域固有の歴史や文化、環境に惹かれた人々が居住・交流し地域の活動・交流拠点となっている

広域交通と地域交通の結節点となっている

地域間の基幹交通網の整備により、他の都市へ長時間の移動が可能になったとともに、周辺の集落からのバス、コミュニティ交通などのターミナルとなっている

広域的なまちづくりが進んでいる

周辺の集落の居住者も頻繁にまちを訪れ、まちなかは人口以上の賑わいを見せている
・広域的な祭りやイベントが行われ、地域のアイデンティティを形成している

地域で取り組む重点プロジェクト

地域の安全・安心の核となるまちへ

周辺地域の災害対策拠点としての備えの充実
・大規模災害に備えた地域ごとの防災計画や事前復興まちづくり計画(都市機能の確保等)の策定
・宅地耐震化の推進
・住宅や施設の高齢化・耐水化の推進
・災害時の避難計画と避難路の安全確保
・要援護者の把握と支援体制の整備

周辺地域の安心拠点の形成

医療・福祉施設の計画的な整備
・小規模駅舎のバリアフリー化やインステップバスの導入促進
・公共交通の活用促進と地域のコミュニティ交通への支援
・利用者目線での福祉のまちづくりの推進
・地域連携による防犯・交通安全体制の整備

エネルギーや食の地産地消で自立したまちへ

地域エネルギーの効率化・自立化
・周辺部の遊休地等への創エネ施設設置の推進
・ごみ処理・下水・工場廃熱等の都市廃熱の積極活用
・節電や省エネに配慮した暮らしの普及・啓発

地域の自然や気候を生かしたまちづくり

依存しない暮らしへの転換促進
・パークランドライドや自転車活用など、自動車に過度に頼らない暮らしの転換促進
・道路や公園、河川、建築物の敷地、屋上、空き地等の緑化
・都市内農地の保全・活用
・地域環境に応じた住宅等の普及促進やインセンティブの付与

個性が集まり賑わうまちへ

地域の多様な歴史・文化の発見と発信

沿道景観等の広域景観の形成
・歴史のまちなみや近代化遺産、産業遺産等の保全・活用
・地域に活力をもたらすしごとへの創出

空気を活用した交流促進と担い手育成

多自然居住・二地域居住の推進
・空き地や空き家、空き店舗等の交流拠点化等による活用
・都市の多様なニーズに応えるNPO等への支援
・地域と地域をつなぐ基幹交通網の整備・再構築
・きめ細かなコミュニティ交通への支援
・周辺地域との連携による広域的なまちづくり
・集落と地方都市や地方都市間の広域的な連携の促進
・地域ぐるみでの祭りやイベントの推進

さまざまな人が交流する結節点へ

まちづくり基本方針 (H25年3月改定) IV 地域のまちづくり (③郊外住宅地)

生活機能の劣化

人口減少により取縮した住宅需要は、郊外住宅地に最も大きな影響を及ぼす。利便性や住環境の差による地域間の格差が大きくなり、生活機能が劣化する地域の出現が懸念される。



懸念される事態

計画された都市基盤による高い安全・安心と、まちの「ゆとり」ある良好な住環境を併せ持ったニュータウンは、住民が主体となり、様々なコミュニティビジネスがまちの機能を補完し、ペンドタウンから、多世代が連携する普通のまちに生まれ変わっている。また、疎住化が進んだ郊外住宅地の一部は、地域と行政の協働により緑地化され、住民の憩いの場となっている。

住民主体の成熟したまち

安全・安心のまちづくり

3才の時から暮らしている康雄さん(68)の自宅は、10年前に耐震補強済だ。元消防署員の経歴から、防災フループのリーダーでもある康雄さんは、今日も地域の循環バスに乗って、最近購入してきた新婚夫婦へまちの防災計画の説明に赴く。建替えが終わったばかりのセンター施設には、介護付き住宅と福祉施設も併設され、康雄さんも将来の同居について検討中だ。

地域の防災・減災対策が向上している

- ・建築物や宅地の耐震性が確保されている
- ・一部危険な宅地では建築が制限されている
- ・自主防災組織や防犯組織が活発に活動し、地域の防災や防犯体制、要援護者の支援体制が確立している
- ・高齢者等が安心して暮らせる環境になっている
- ・センター地区の商業施設や公共施設の改修が進み、誰もが生きがいを持ち安心に暮らしている
- ・医療・福祉サービスが充実している
- ・生活利便サービスが充実し快適に暮らしている
- ・団地内には高齢者等の移動も容易な公共交通が整備されている

環境と共生するまちづくり

妻の智子さん(61)は環境活動に熱心で、自宅の改修にあわせて太陽光発電設備や蓄電設備、雨水貯留タンクを設置したのも彼女の主張だ。さらに、地域でのカーシェアリンググループに入り、康雄さんの愛車も手放すことになった。隣家の土地を共同購入し運営した菜園は地域で評判になり、春に孫の豊くん(10)が植えたスイカももうすぐ収穫時期だ。

住宅・都市の低炭素化の先進地域になっている

- ・発電設備や省エネ設備によるゼロエネルギー型住宅地が開発されている
- ・地域による太陽光発電設備の集団導入や団地内の空き地等への創エネ施設の実地が進み、スマートコミュニティによる効率的なエネルギー活用が実現している
- ・新規開発団地は創エネに配慮した空間構成となっている
- ・カーシェアリングの他、電気バスや燃料電池バスが主要交通となっている
- ・自然と共生の先進地域になっている
- ・プロック扉は生垣に代わり、まちなかに緑が溢れ、安らぎの空間が形成されている
- ・地域内には近郊から鳥や昆虫が訪れている
- ・郊外住宅地の一部は、地域と行政の協働により緑地化され、住民の憩いの場になっている

魅力と活力あるまちづくり

幼なじみの義明さん(68)は地域フアァンドの助成を活用し、センターの空き店舗で不要家具の補修事業を始めた。建築士でもある義明さんは、変化する団地の暮らしや景観を発信するWEBサイトを運営し、さらに宅地の細分化を防止する地区計画の策定にも取り組んできた。こうした活動はネットで評判になり、仲間も増え、デザインコンテストで活動が広がった。

地域内に新たなサービスや「しごと」が生まれている

- ・医療や介護、購買施設等が徒歩圏内に立地している
- ・住民の工夫により、地域資産を活用した新しいサービスが生まれている
- ・まちの景観や空き空間は地域により管理・活用されている
- ・団地の文化や景観が地域の新たな資産になっている
- ・景観ルールにより、ゆとりある美しいまちなみが保たれ、街道の景観や土地利用もコントロールされている
- ・住宅の管理や維持保全への意識が高まり、適切な維持管理や更新と、中古住宅流通が進んでいる
- ・地域主体の空き地・空き家の取得・活用が進んでいる
- ・住宅地は宅地の細分化防止やゆとりの確保に重点を置いた計画がなされている

自立と連携のまちづくり

義明さんの活動には多くの仲間が集まり、法人化の準備を進めている。法人には近隣の大学生も参加し、家具だけではなく、大学生や退職者等と協働した住宅改修事業、戸建に住む高齢単身世帯の管理事業等も手がける計画だ。義明さんは最近でも忙しく、康雄さんは少し寂しい。今度、センターの居酒屋で一杯やろうと約束しているのだ。

多世代による多様なコミュニティが実現している

- ・都市へのアクセスの良さや地域内のゆとりある空間などにより、様々なライフスタイルが可能となっている
- ・シェアハウスやコワーキングスペース、地域内の住替えなどにより、多世代がフラットに居住している
- ・都市中心部に勤務する若年世帯がゆとりある住環境を持つ郊外住宅地で子育て時期を過ごす者が多くなっている
- ・高齢者が活躍し、地域をマネジメントしている
- ・空き店舗等を活用した趣味活動やコミュニティビジネスなど、多様な人材が自由時間を過ごし、交流している
- ・経験豊かな住民が地域のリーダーとなり、住民主体の地域マネジメントが進んでいる

地域で取り組む重点プロジェクト

住民がつくる安全で安心な「まち」へ

- #### 宅地の耐震化と自主防災組織の強化
- ・宅地の耐震化と、住宅や施設の耐震性の推進
 - ・公的住宅や民間住宅の老朽化対策
 - ・自主防災組織の強化
 - ・要援護者の把握と支援体制の整備
- #### 高齢者等の暮らしの安心確保
- ・センター地区等の商業施設や公園、駅舎など、公共施設のバリアフリー化
 - ・センター地区等への介護・福祉施設の導入
 - ・配食サービスや日常生活用品の宅配サービスの充実
 - ・団地内や団地間をつなぐコミュニティバス運行支援

ゆとりある空間で環境最先端の「まち」へ

- #### 住宅やまちの低炭素化や創エネ、自然との共生に向けたモデル的取組
- ・地域合意による空き地への創エネ施設の導入
 - ・創エネ・蓄エネ施設を備え、エネルギーを効率的に利用する団地の開発
 - ・低炭素まちづくり計画の推進
 - ・空き地の緑化、ビオトープ化、菜園化
 - ・公共交通の活用促進や低炭素な交通システム(コミュニティバス、カーシェアリング、パークアンドライド)の導入
 - ・住宅地内の農地の保全と、疎住化が進んだ住宅地の緑地化に向けた方策検討

魅力としごとを生み出す「まち」へ

- #### 空き地・空き家等を活用した住民による新たなサービスや「しごと」の創出
- ・センター施設への新たな機能・サービスの導入推進
 - ・地域の空き地や空き家、空き店舗等を活用した、住民やNPO等による取組のコミュニティビジネス化
 - ・団地の歴史や資産の発掘と発信による団地の魅力づくり
 - ・地域ごとの新たな景観ルールの策定推進
 - ・空き地・空き家対策の推進(中古住宅流通促進と空き家の適正管理の推進)
 - ・まちの熟成に向けた都市計画の見直し(地区計画制度の活用などきめ細かなまちづくりの推進)

多様な人材が活躍できる「まち」へ

- #### 若年世代を呼び込む住環境づくり
- ・シェアハウス等の導入
 - ・中古住宅の流通促進と世帯ニーズに応じた適切な住宅への住替え促進
- #### 高齢者の経験や能力を活かした担い手育成
- ・空き店舗等の交流スペースやチャレンジジョブへの活用
 - ・住民による地域経営に向けた人材育成
- #### ニュータウン再生の成果の活用
- ・明舞団地における取組や成果の整理と発信
 - ・明舞団地再生の成果を活用した他のニュータウン再生

